

第17回ハイライフセミナー

地域から日本を変える 7つの提案

日本の環境首都コンテスト

環境首都コンテスト全国ネットワーク
NPO法人 環境市民 杵本育生

1

持続不可能な 社会、開発

地球サミットで認識された 世界共通の21世紀の課題

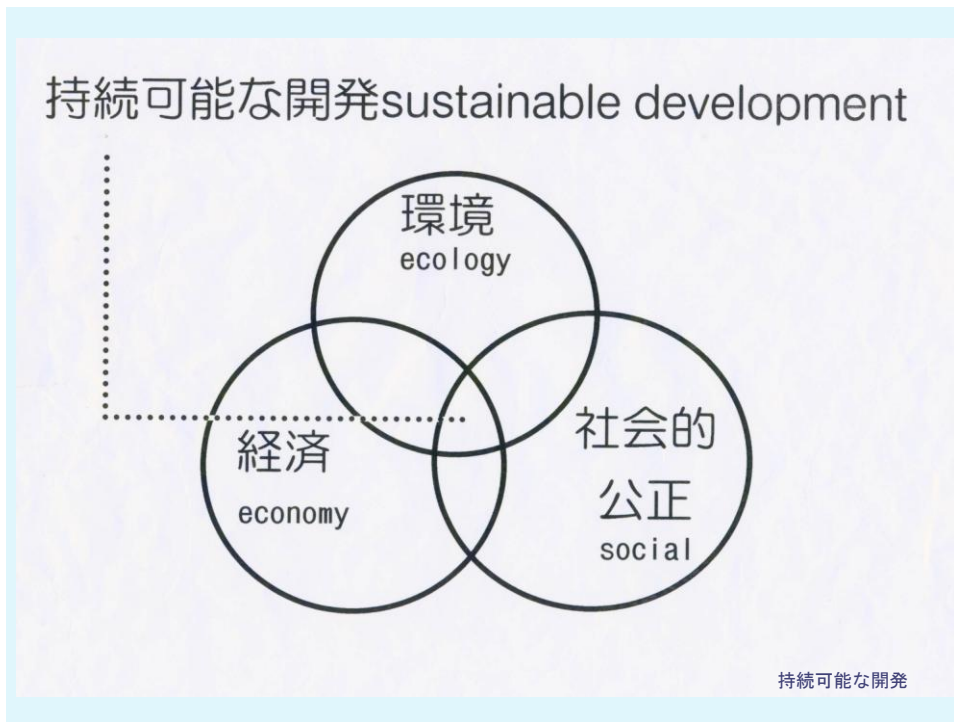
持続不可能とは

私たちの経済活動、生活のスタイルによって

- 環境
- 資源（鉱物、石油、森林）
- 食糧と水
- 人口
- 貧困（南北格差）
- 対立 民族、宗教、戦争

持続可能な開発とは

将来世代のニーズを損なわ
ないようにして
現代世代のニーズを満たす
こと



アジェンダ21 地球サミットでの合意

「アジェンダ21で提起されている諸問題及び解決策の多くが地域的な活動に根ざしているものであることから、地方公共団体の参加及び協力が目的達成のために決定的な要素になる」（28章）

として、国連が世界中の自治体に対して、ローカルアジェンダ21の策定を求めた

持続可能な社会を築くには、政府の政策の大転換が必要である。ただ、

政府の政策転換は、地域から起こる

例 「公害」

- ◆ 四大産業公害、道路公害等に対して対応する法律がない中で、自治体は国に先んじて様々な規制、協定、指導等を実体化させて行った。
- ◆ このような取り組みと国民の強い関心により1970年11月に「公害国会」を開催。公害対策基本法改正案をはじめとする公害関係14法が成立した。
- ◆ これらの法律によって、事業者の基準遵守の指導権限をほぼ全面的に地方に委譲。法律以上の上乘せ規制の規定を明確化して地方自治体の権限を強化
- ◆ 環境庁を設置

7

ドイツ 自然・環境保護の連邦首都 (環境首都) コンテスト

- ・ 1990～98年まで実施 9回実施
- ・ 第1回参加は30市町村、
最終回で223市町村（最多）の参加
- ・ 1位=首都として表彰



90年 エアランゲン市 91年 エアランゲン ネットルスハイム村 92年 フライブルク市 93年 ネットルスハイム村 94年 エッカーンフェルデ市 95年 パート・エインハウゼン市(自然保護部門) 96年 ハイデルベルク市 97年 ミュンスター市 98年 ハム市

8



エッカーンフェルデ市

フライブルク市

ミュンスター市

9

Drei Journalisten aus Japan recherchieren über Eckernfördes Umgang mit der Natur

Japaner wollen von Eckernförde lernen

Auf die Spuren des Umwelt- und Naturschutzes in Eckernförde machen sich zur Zeit drei Gäste aus Japan. Unter der Führung von Michael Packschies sammeln sie Material für eine Reportage, die in Japan über das Ostseebad erscheinen soll. Vor allem die politische Umsetzung und Realisierung von Projekten interessiert die Gäste bei ihrem viertägigen Besuch.

ECKERNFÖRDE (dis)
Besonderes Interesse zeigten die drei Mitglieder der japanischen Umwelt-NGO

(Non Gouvernement Organisation) an der Umsetzung von Umweltschutzprojekten. So besuchten sie unter Führung von Michael Packschies un-

ter anderem den Eimersee. Hintergrund ihres Besuchs im Ostseebad ist der Auftrag, eine acht- bis zehnteilige Reportage in der Zeitschrift

„Nikkei Eco 21“, ein Magazin über Wirtschaft und Ökologie, über Umweltschutz, Naturschutz und die Einbeziehung wirtschaftlicher Fragen in Eckernförde zu veröffentlichen. „In Japan wissen wir viel über Naturschutz in

Freiburg und Heidelberg als Bundesumwelthauptstädte, aber Eckernförde ist noch recht unbekannt“, berichtete Keiko Oya, die sowohl als Dolmetscherin und als Journalistin die dreiköpfige Delegation begleitet. Sie hätten bereits festgestellt, dass das Umweltbewusstsein der Bürger weit entwickelt sei. Vor allem auch die Verwaltung und Bauabteilung der Stadt sei bei Fragen des Umweltschutzes flexibler. „In Japan sind wir im technischen Umweltschutz sehr weit, aber die planerische Umsetzung, speziell großflächiger Naturschutzprojekte, kann noch verbessert werden“, so Oya. Weitere Ziele ihres Besuchs sind die Goossewiesen sowie Al- und Markant in der Ostlandstraße, deren Märkte

durch Erdwälle in die Landschaft integriert wurden. Außerdem hatten sie Gelegenheit, mit Landwirtschaftsminister Klaus Buß über die während seiner Amtszeit als Bürgermeister umgesetzten Naturschutzprojekte zu spre-

Anzeige
GROSSER FAMILIENTAG
beim Fliesenleger Giske!
25. 9. 99
Ravensberg 18a, 24214 Gettorf

chen. Gelegenheit zum Gespräch gab es auch mit TOZ-Manager Rainer Fichter, Vertretern der Stadtwerke und mit ehrenamtlichen Umweltschützern. „Ich bin fasziniert, mit welcher Direktheit sie ihre Gesprächspartner befragen“, freute sich Packschies über das Interesse aus Japan am Ostseebad.



Michael Packschies (re.) führte die japanischen Besucher Shizoko Shimomura (v. li.), Keiko Oya und Delegationsleiter Ikuo Sayinato zum Eimersee. Foto: dis

調査風景

日本のフライブルクをつくろう

日本の中で、他の自治体の目標になるような、持続可能な地域社会モデルを、自治体、地域住民と共に、NGOが「エコひいき」して創り出す。そして、他の自治体へ影響力を及ぼし、日本が持続可能な社会になる、大きなきっかけにしていく



1992年のドイツの環境首都フライブルク

11

日本の環境首都コンテストの具体的目的

- (1) 多様な環境政策の提案
- (2) 戦略としての競争
- (3) 環境行政への評価の向上と政治、行政内部への好影響、イメージ形成
- (4) 市民による環境監査
- (5) 評価のツール
- (6) 自治体間の情報とネットワーク
- (7) NGOと自治体のパートナーシップ創出

12



質問票

15項目83問+自由記述

交通は自治体の状況別に選択

産業は主要なもの2つを選択

208ページ

NGOから自治体への政策提案集でもある

13

質問項目 1

- A 環境基本条例 ローカルアジェンダ21 環境基本計画
- B 環境マネジメントシステム
- C 住民とともにチェックするシステム・情報公開
- D 率先行動 エコオフィス
- E 自治体交流
- F 職員の資質・政策能力の向上と環境行政の総合化・予算
- G 住民のエンパワーメントとパートナーシップ
- H 環境学習

14

質問項目 2

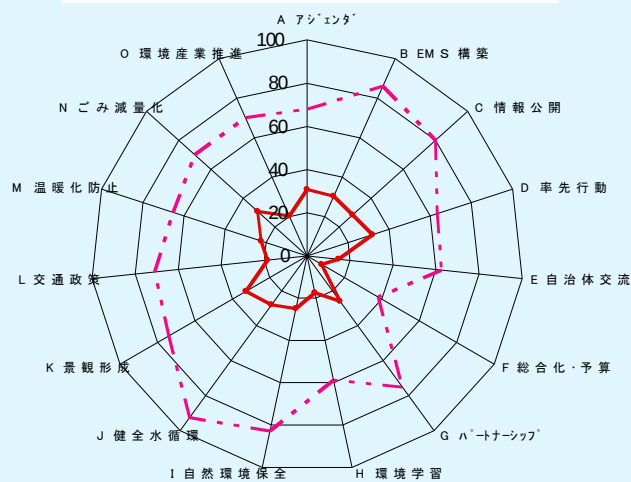
- I 自然環境の保全と回復
- J 健全な水循環
- K 風土を生かした景観形成と公園づくり
- L エコロジカルな交通政策
- M 地球温暖化防止 エネルギー政策
- N ごみの減量化
- O 環境に配慮した産業の推進
- P 自由記述

15

総分析

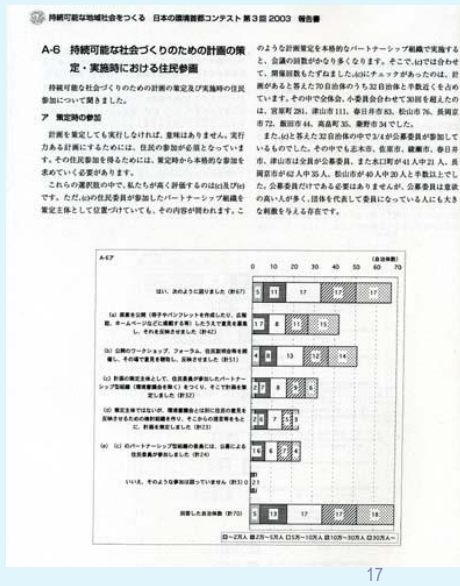
配点に対する得点率

--- 全国最高点 — 全国平均点



16

報告書



環境首都コンテスト 表彰式



日本の環境首都コンテスト

- ・ 2001年度から10年間にわたって毎年実施
- ・ 市区(東京23区)町村を対象
- ・ 全自治体にメール、ファクシミリ等で参加呼びかけ
- ・ 自治体が自発的に応募

参加自治体数

第1回	93 (2.88%)	
第2回	115 (3.57%)	
第3回	83 (2.61%)	平成の大合併の影響
第4回	75 (2.54%)	平成の大合併の影響
第5回	75 (3.45%)	合併が落ち着いてきた
第6回	74 (4.02%)	参加率過去最高
第7回	66 (3.66%)	質問大改定による影響
※	ドイツの環境首都コンテスト最大参加率 2.62%	

19

環境首都コンテスト全国ネットワーク

環境エネルギー政策研究所 (東京)
F・Eジャパン (東京)
ふるさと環境市民 (神奈川)
かながわ環境教育研究会 (神奈川)
やまなしエコネットワーク (山梨)
中部リサイクル運動市民の会 (愛知)
環境市民東海事務所 (愛知)
環境市民 (京都) 主幹事団体
未来の子 (広島)
くらしを見つめる会 (高知)
環境ネットワークくまもと (熊本)
プラス・エコ (大分)
環境ネットワークながさき塾 (長崎)

参加協力団体

住みよい環境をつくる三鷹市民連絡会 (東京)
T-GAL (鹿児島)

20

多様な環境政策の提案

- ・ 質問票から、未着手の施策や、施策の具体的ヒントを得られたという自治体の反応は多い
- ・ 質問票等を意識して新しい施策を実施される事例が増加している
- ・ 平均点の上昇がはっきりと見られる
- ・ 先進事例集及び映像版先進事例集がかなり活用されている
- ・ 首都コンの(連続)研究会を開催する自治体が現れた(安城市、新城市、水俣市)

21

遊佐町「大変だけれども、得るところは多い」

参加は今回で3回目。最初は自分の自治体が全国的にはどの程度のレベルなんだろう、ちょっと面白そうだな、という程度の気持ちでした。ところが、質問票を見てその厚さにびっくり。方々に問い合わせをやっと回答が終わったと思ったら、次は電話ヒアリング、そのあと訪問しますと言われ、ここまでやるのかと驚きの連続でした。でも終わってみれば、大変だけれども、得るところは多いと思っています。

宇部市「検討委員会を設置して回答に臨みました」

市長がマニフェストで「環境首都をめざす！」と約束していることもあり、担当者としてはやりがいを持ってコンテストに参加しています。今回は庁内で環境、総合政策部他、5部長で構成される検討委員会を設置して回答に臨みました。結果、庁内のコンテストに対する意識も高くなりました。次回も環境首都をめざしてがんばります。

22

周南市「弱いところを集中的に改善しました」

第三者機関からの評価という視点でコンテストに参加しています。コンテストの結果の中で、特に取り組みの弱いところを集中的に改善してきました。例えば、環境基本計画や環境マネジメントシステム分野では、当初2市2町合併後間もないことからほとんど得点できませんでしたが、次第に改善されてきています。環境報告書に住民が意見を出せるアンケートをつけたのもコンテストからヒントを得たからです。

秦野市「全回皆勤参加で施策の経年変化を把握」

施策の経年変化を把握するためにも全回皆勤で参加しています。同じ神奈川県内の参加自治体とは日頃から情報交換を行っています。今回の結果は予想よりもよい点数だったと思います。本市の特長である自然環境保全と住民とのパートナーシップをさらに伸ばすとともに、他の分野も含めてバランスのとれた環境施策をめざし、市民の環境意識づくりにもつなげていきたいです。

23

戦略としての競争

- ・ 上位自治体の順位争いは熾烈
- ・ 自治体の市長が将来において環境首都になることを目標として公言された（北九州市、水俣市、飯田市、安城市、新城市、宇部市、多治見市）
- ・ 総合計画の主目標として環境首都を掲げた自治体が現れた（安城市）
- ・ 環境首都づくりの組織等を設置した自治体がある
北九州市は環境首都推進室・環境首都予算 安城市は専任副市長の設置・環境首都推進課、水俣市は、環境首都まちづくり市民会議(市民)・環境首都まちづく委員会(市民)・環境首都まちづく推進会議(庁内)・環境首都まちづく研究会(庁内)設置

切磋琢磨が現実

総合10位までの平均点 急上昇
第4回 459点 第5回 505点 第6回 578点

全体平均点も大きく上昇
第4回 245点 第5回 273点 第6回 294点

よりパフォーマンスを重視した、質問を大幅改定し、得点のかかなりの低下が予測された第7回コンテストでも総合10位までの平均点559点、全体平均点が282点とあまり低下しなかった。

25

第7回 総合入賞自治体

総合順位			昨年度順位
第1位	北九州市	744点 (987,230人)	1位
第2位	水俣市	646点 (28,996人)	2位
第3位	飯田市	613点 (106,998人)	5位(同)
第4位	安城市	582点 (177,406人)	4位
第5位	新城市	581点 (51,957人)	3位
第6位	宇部市	532点 (177,419人)	5位(同)
第7位	板橋区	482点 (529,173人)	8位
第8位	尼崎市	478点 (459,341人)	9位(同)
第9位	多治見市	472点 (116,037人)	7位
第10位	豊田市	458点 (419,055人)	復活参加

26

自治体間の情報とネットワーク

- ・ 地域ブロック別交流会が、自治体の持ち回りで毎年数地区で開催している
- ・ 先進事例集等を用いた調査訪問が、各地で自発的になされている
- ・ 環境首都コンテストを通じて多くの自治体との交流が深まったという意見が自治体関係者からかなり聞かれる
- ・ 「戦略会議」「環境首都をめざす自治体フォーラム」を毎年開催し、上位自治体を中心に市長、町長、職員の参加が得られている

27



世界地方都市十字路口会議 環境首都を目指すまちづくり



NGOと自治体のパートナーシップ創出

- ・ 参加自治体から、ネットワークNP0に対して職員研修、住民向け講演会等の講師依頼がかなりある
- ・ 環境基本計画策定のコーディネート、環境施策の進行状況調査等の協働事業委託が、参加自治体とネットワークNP0でなされた。
- ・ ネットワークNP0が主催するフォーラム等の講師、ゲストとして参加自治体職員を招く例が増えている
- ・ 日常的に、参加自治体とネットワークNP0の間で情報交換がなされるようになった

日本の環境首都コンテスト地域 交流会

- ・ 環境首都コンテストの成果、分析
- ・ 先進事例の発表
- ・ 自治体間、NGOとの交流

関東、中部、近畿、
中国、四国、九州で
開催



05九州地区交流会

31

モデル自治体共同調査研究 多治見市

- ・ 協働する自治体を公開募集し、応募のあった3自治体から岐阜県多治見市と提携
- ・ 5年間にわたり共同研究
- ・ ビジョン、戦略、手法、施策、住民参画を研究し報告書を作成する（2009年3月予定）
- ・ 現在は多治見市への提案プロジェクト、戦略を検討中（月1回）



32

環境首都をめざす自治体全国フォーラム

2008 in 飯田市



2007 in 宇部市



先進事例集 毎年発行

[illegible]

挑戦—地域から日本を変える—

第3回セミナー開催 2月28日午後

読売広告社 コムホール

第3集 高島町、飯田市、北九州市

第2集 板橋区、多治見市、水俣市

第1集 住民参画

ニセコ町、大和市、津山市、熊本市

(財)ハイライフ研究所との協働



35

持続可能な社会を創る7つの提案

- 1 人を生かす、創る
- 2 地域の将来像を描く
- 3 戦略的に事業を組立てる
- 4 環境、経済、社会を合わせる
- 5 パートナーシップを深める
- 6 行政を総合化する
- 7 率先例をつくりだす

36

1 人を生かす、創る

地域の公共をより良くするリーダー、コーディネーターが各セクターにいて、そのような人を創出していくこと

2 地域の将来像を描く

地域特性を生かした持続可能で豊かな地域の将来像を多様な参画をえながら描くこと

3 戦略的に事業を組立てる

将来像を実現するための道筋が、総合計画環境基本計画などで明確に示され、実行と評価に住民参加の仕組みがあること

37

4 環境、経済、社会を合わせる

環境、経済、社会—の3要素を合わせた相乗効果の得られる事業、活動を考案し優先すること

5 パートナーシップを深める

参画と対話を自治体運営の基礎にすえ、その仕組みをつくること

6 行政を総合化する

行政組織の縦割り弊害を除去し、総合的な施策立案と実施体制をつくること

7 率先例をつくりだす

多くの人々が実際に行動に移すために、人々に希望と勇気を与える成果事例をつくりだすこと



3月10日発売
本セミナーで先行販売

<http://eco-capital.net/>
office@eco-capital.net

主幹事団体 環境市民

電話 075-211-3521

FAX 075-211-3531

<http://www.kankyoshimin.org>

org
life@kankyoshimin.org

著作権上の理由から、この資料の
許可のない複製はご遠慮ください